

福祉保健研修交流センターウィリング横浜 平成30年度 事業計画

1 施設の管理運営・貸出業務

福祉保健人材の確保・定着・育成の拠点である福祉保健研修交流センターウィリング横浜の研修・情報提供・交流支援等の事業を円滑に実施するよう施設を適正運営します。

(1) 施設の目的に沿った管理運営

福祉保健活動従事者及び一般の利用者に対し安定的、継続的な運営に努め、利用者に快適な環境を提供します。

また、予約管理システムの活用により、インターネットを利用した利用受付などの安定的な運用を図ります。

ア 目標稼働率

研修室目標稼働率	62% (昼間 73%)
----------	--------------

今年度から新たな指定管理期間を迎えるに当たり、市の「指定管理者選定委員会」からのご意見も踏まえ、従来の稼働率目標 60%を見直し、62%に上げました。1%の稼働率を上げるためには、各利用時間帯（午前・午後・夜間）を1コマとすると、年間約 250 コマの利用実績を増やすことが必要です。そのため、稼働率が他の月と比べて低い月（4～5月など）や夜間の稼働率を上げることで目標を達成します。

なお、62%の稼働率目標は、指定管理期間の目標として設定し、この目標を達成・維持する運営を目指します。

イ 周知・広報

(ア) 予約管理システムに蓄積されたデータを活用し、これまでの利用団体の傾向を反映させた広報物を作成します。 【新規】

(イ) 施設案内リーフレットやチラシを福祉保健関係団体だけでなく、一般企業等へ配布し、周知します。 【新規】

(ウ) 横浜市社会福祉協議会（以下、「本会」という。）の高齢・障害・児童部会などのネットワークを活用し、施設利用への広報を行います。

(エ) 本会の広報紙「福祉よこはま」や地域紙へ施設情報を掲載します。

(2) 建物・設備等の管理

利用者に施設を快適・安全・安心して利用していただくために、施設の維持・保全・管理に努めます。

ア 建物・設備等の保守・修繕 【重点】

建物・設備の適切な維持・管理を行うため、日常の点検や小破修繕に加え、定期点検を実施します。

老朽化が進んでいる設備や備品について、修繕及び設備更新計画を作成して点検・保守を実施し、利用環境の向上に努めます。

また、研修室等の照明のLED化により、省エネルギー化を図ります。（平成29年度末時点 研修室等室内は62%実施済）

イ 清掃・設營業務

環境衛生、美観の維持を心がけ、施設として安全かつ快適な空間を保つため次の業務を行います。

(ア) 日常清掃

日常的な清掃を行い、施設、備品、器具等が常に清潔かつ良好な状態で使用できる環境が保たれるようにします。

(イ) 定期清掃

日常清掃では実施しにくい清掃等を確実にを行うため、定期清掃を行います。

(ウ) 研修室等の設営

利用者から机・椅子等の配置や備品の要望を事前に伺い準備することで、当日は利用者による会場の準備が不要となり、安心・快適に研修室等を利用できるよう、引き続き努めます。

ウ 警備関係業務

施設の防犯・保安管理のため、職員や警備員による定期巡回を実施します。

なお、警備員による警備方法は、年中無休・24時間体制とし、防犯・保安対策については、ゆめおおおか管理組合、同組合構成員と協力・連携を図りながら行います。

(3) 利用者ニーズの把握、苦情対応

利用者からの要望や苦情は、業務水準向上の機会と捉え、速やかに、かつ適切に要望等を受け止めて改善を図り、利用者満足度の向上を目指します。

ア 施設の設備及び接遇に関するアンケートを年2回実施し、利用者のニーズを把握しサービスの質の向上につなげます。 【設備アンケートは新規】

イ 施設内にご意見箱を設置するとともに、本会ホームページ内のご意見・ご提案入力フォームにおいて、常に利用者からの意見・要望を受け止める機会をつくります。

(4) 職員体制・育成

ア 職員配置

次のとおり職員配置を行い、適正な施設の管理運営及び事業に努めます。

部署等の名称	担当業務	職種	常勤職員	非常勤職員	主な担当業務
館長	館内業務総括	館長	1		全体業務総括
小計			1		
管理運営担当	センター管理運営事業	担当課長	1		管理運営業務統括
		担当職員	3	2	管理運営業務他
		担当職員	4	8	フロント業務
小計			8	10	
人材開発担当	人材開発育成事業	担当課長	1		人材開発育成事業統括
		担当職員	7	7	研修事業他
		担当職員		7	情報資料室業務
小計			8	14	
合計			17	24	

イ 職員育成の取組

- (ア) 本会が作成した「人材育成計画」の職員育成体系に基づき、OJT の実施及び他機関が実施する研修も含めて参加することにより、職員の資質向上に取り組みます。
- (イ) 窓口業務は施設の顔であるとともに運営団体である本会のイメージにも直結するため、接客・接遇に関する研修を実施し、利用者満足度の向上に努めます。

2 人材育成事業 【重点】

(1) 事業を実施するに当たっての考え方

福祉保健活動従事者を対象とする公共性の高い研修機関として、「よこはま福祉人材育成指針」に求められる人材育成を推進します。受講者アンケートを踏まえ、ニーズに即した研修を企画実施します。

研修申込率が70%未満や満足度が80%未満の研修については、次年度の研修計画を検討する際に、開催時期や内容変更等による改善を図ります。

また、保健医療分野の研修の充実を図るとともに、ウィリング横浜以外での出張研修を積極的に拡充し、市内のどこからでも参加しやすい受講環境を整えます。保健医療分野の研修は平成29年度4講座から平成30年度は7講座、出張研修は平成29年度5講座から平成30年度は7講座に拡充しています。 【拡充】

研修のコンセプトを「組織力の向上と地域福祉の推進」として研修内容に反映します。

ア 組織力の向上

福祉保健活動従事者が所属の中で、組織の理念・目的の達成に向けてそれぞれが置かれた職位に応じた役割を果たせるよう、組織力の強化につながる研修の主軸として全国社会福祉協議会の提唱する階層別のキャリアパス対応生涯研修課程を展開します。

組織力の強化につながる研修の中で、新たに平成30年度は厚生労働省の「社会的養護処遇改善加算実施要綱」に即した研修を実施します。 【新規】

イ 地域福祉の推進

「地域協働」の考え方に基づき、事業所等が持つ福祉保健に関する技術・知識を地域に還元するイメージや地域の社会資源活用等の考え方を各研修に組み込むとともに、社会福祉法人の地域貢献研修及び地域福祉活動者の育成研修を強化します。

平成30年度実績見込み

研修件数	66 件
研修コース数	80 本
研修受講者数	5,536 人
研修開催日数	107 日

(2) 主催研修

引き続きキャリアパス対応生涯研修課程を主軸に、福祉人材の定着・育成に取り組みます。

ア 組織力を高める研修

組織全体のサービス向上を意識し、キャリアパス対応生涯研修課程を主軸に階層

間の連動性を意識した研修を実施します。

- (ア) 人材育成に関する研修（トップセミナー、チームリーダーのための人材育成研修等）
- (イ) 組織運営管理に関する研修（後輩育成のための OJT 研修、組織で取り組むリスクマネジメント研修等）他

イ 専門力を高める研修

研修参加者個々のスキルアップを目標に、知識情報及び技術技法を得ることができ研修を実施します。

- (ア) 社会福祉援助技術に関する研修（スーパービジョン基礎技術等）
- (イ) 制度・施策入門（地域包括ケアシステム強化のための介護保険制度改正の概要等）
- (ウ) 医療基礎知識セミナー（摂食嚥下のメカニズム等）他

ウ 地域力を高める研修

横浜市や本会の担当部署と協議、連携して実施します。小地域福祉活動従事者研修については、本会が開催する「よこはま地域福祉フォーラム」と一体的に実施します。

また、横浜の地域福祉活動の進展を目的として、地域福祉活動者のリーダーとなっていたきたい方々が、自らの地域の課題の抽出や解決のために必要な手法を学ぶ研修を「地域福祉つなぎ隊研修」として引き続き実施します。

エ 民生委員児童委員研修

民生委員児童委員研修については、横浜市民生委員児童委員協議会との連携調整を行いながら、実施します。

(3) ハマ・キャリ・ネット【拡充】

ウィリング横浜が進める研修情報システムとして、ハマ・キャリ・ネットの稼働を継続します。研修情報としてインターネット上での研修案内の公開に加え、平成 29 年度からは WEB 上での直接申込システムを稼働しています。サイト内の検索を容易にし、より便利に活用できるようにシステムを改善することにより、講座への参加促進を強化します。

(4) 研修委員会の開催

ウィリング横浜の研修等事業について、福祉保健関係団体や施設・事業所のニーズに即した研修ができるよう、企画・進行管理・評価等を行う機関として、外部有識者、カレッジ※参画機関及び市の人材育成所管課長等を委員とする研修委員会を設置し定期開催します。(年3回) ※ 「3 よこはま福祉・保健カレッジ」参照

(5) 福祉保健活動従事者の研修ニーズの把握

研修の企画にあたり、「よこはま福祉人材育成指針」に求められる人材育成を推進します。このため、施設・事業所等がどのような研修を望んでいるか等を把握することを目的として、受講者アンケート（平成 29 年度有効回答率 92%）及び福祉保健関係団体や事業所、教育機関等へのヒアリング（平成 30 年度目標:施設訪問 25 件、学校訪問 15 件、平成 29 年度実績:施設訪問 20 件、学校訪問 11 件）を行います。

3 よこはま福祉・保健カレッジ 【拡充】

横浜市における福祉及び保健サービスの質の向上を図るため、福祉保健活動従事者育成のためのネットワークとして、参画機関の協働による連携研修の実施や、各カレッジ参画団体の研修をカレッジ認定講座としてハマ・キャリア・ネットにおいて紹介します。これらの講座の受講により、福祉保健に関する専門知識・技術、対人援助能力、地域福祉推進能力、マネジメント能力を兼ね備えた人材が育成されるよう取り組みます。

また、積極的に専門機関や職能団体等への情報提供を行い、参画を働きかけ、カレッジ参画機関を増やすことにより、市内機関の相互連携を進めます。

平成 30 年度実績見込み

カレッジ認定講座数	120 講座
カレッジ参画機関数	21 機関

(1) よこはま福祉・保健カレッジ認定講座

参画機関が実施する講座のうち「よこはま福祉人材育成指針」に則る内容のものについては、よこはま福祉・保健カレッジ認定講座として、ハマ・キャリア・ネットに掲載します。

(2) よこはま福祉・保健カレッジ連携講座の実施

福祉保健活動従事者を主な対象としてカレッジ参画機関の専門性を生かした研修を企画し、講師の派遣等を受けることにより、主催研修としてカレッジ連携講座を実施します。

(3) よこはま福祉・保健カレッジ連絡会議の開催

参画機関間の相互連携及び協力を進めるため、よこはま福祉・保健カレッジ連絡会議を開催します。連絡会議の運営及び事業の企画等について検討するため、よこはま福祉・保健カレッジ連絡会議事業企画分科会を開催します。

(4) よこはま福祉・保健カレッジとウィリング横浜の事業連携

参画機関と共催し、福祉の仕事相談や施設見学会等を実施します。

また、効果的かつ合理的にカレッジ参画機関の事業紹介と福祉保健についての啓発を行うため、「サントクフェスティバル」を年1回実施します。この事業は、カレッジ事業(研修紹介等)、情報収集・提供事業(企画展示等)、人材確保・定着支援事業(講演・面談等)、調査研究事業(研究発表・技術体験等)を合同して企画します。これにより、広く市民に「福祉の魅力」を発信し福祉への理解を深め、新たな福祉人材の発掘を行い福祉人材の確保や福祉保健活動従事者のサービスの質の向上を目指します。

(平成 28 年度から実施)

4 情報収集・提供事業

情報収集・提供事業では、神奈川県内唯一の福祉専門図書館として、情報資料室及び情報資料室内の視聴覚ライブラリーを管理運営し、福祉保健等に関する情報の収集及び提供を行います。福祉保健活動従事者や幅広い市民の方々に、貸出や館内閲覧等により収集した情報を提供します。

平成 30 年度実績見込み

閲覧者数	11,300 人
新規登録者数	380 人
貸出冊数	5,800 冊
新規受入数	1,450 冊

(1) 蔵書方針

平成 24 年度に設定した蔵書方針を平成 30 年度も継続し、福祉保健に関する資料の収集提供及び研修事業、調査研究事業に関連した資料を収集し受講者を中心とした利用者へ提供します。

<蔵書方針の内容>

- ア ウィリング横浜主催研修に関連した資料・テキスト等を収集・整備・提供します。
- イ 研修講師の著作品や推薦図書等を収集・整備・提供します。
- ウ 大学紀要及び福祉保健関連機関における事業報告書等について、定期刊行物を収集・整備・提供します。
- エ その他研修事業等に関する資料を収集・整備・提供します。

(2) 蔵書内容 【拡充】

福祉保健関連分野の図書・逐次刊行物・会報紙・広報紙・視聴覚資料等を前述の蔵書方針に基づき収蔵しており、その蔵書数は約 6 万 6 千点に及んでいます。

また、歴史的に貴重な福祉保健関連の資料及び逐次刊行物を整備保存しています。

さらに今年度は新たに次の 2 点の取組みを実施します。

- ア 今年度から配置した医療職により、保健医療分野の蔵書を点検し、分類方法の工夫や新たな蔵書収集等を実施します。
- イ こころの相談室※と連携しカウンセラーから蔵書購入提案を受けることにより、保健医療分野の蔵書の拡充に取り組みます。※ 「7 (1) こころの相談室の運営」 参照

(3) 企画展

主催研修、人材確保事業、研究発表大会において、各研修テーマに関連した図書・資料や福祉保健関連の貴重な蔵書等を展示する企画展を開催します。

また平成 30 年度は平成 29 年度に引き続き、横浜市民生委員児童委員協議会と共催で企画展を実施し、福祉保健活動従事者に向けて積極的に周知を行います。

(4) 情報発信

福祉保健活動従事者や幅広い市民の方々が必要な情報を得られるよう、ホームページに新着情報を掲載するとともに、テーマ別図書情報を作成し、主催研修等での配付や情報資料室内での掲示を行います。

(5) 講師情報の整備と提供

ウィリング横浜主催研修等の研修講師情報を集約し、市内の福祉保健施設等の希望に応じた講師紹介を行うなど、研修の企画におけるコンサルティング的機能の充実に努めます。

5 人材確保・定着支援事業

福祉保健分野における恒常的な人材不足を解消するために、福祉保健職場の理解促進を目的として、福祉の仕事個別相談をはじめとした各種事業を実施します。

平成30年度実績見込み

福祉保健・介護のお仕事個別相談人数	100人
出張による個別相談人数	180人

(1) 福祉保健・介護のお仕事個別相談の実施

福祉保健分野への就労を考えている方を対象に、仕事内容等各種情報提供を含めた個別相談を行います。

<実施日時> 毎週月曜日 14時～16時

毎週金曜日 10時～12時

<実施場所> ウィリング横浜 12階交流スペース内

(2) 福祉保健人材の発掘

関係機関と連携しながら大学等教育機関を訪問し、福祉保健関係の仕事紹介の場の設定を依頼するとともに、必要に応じて情報提供及びガイダンス等を実施します。

また、各区社会福祉協議会が実施する区就職相談会について、会場提供や周知等積極的な協力を行います。

(3) 福祉のしごと☆魅力発見！事業

福祉保健分野への就労を考えている方や働きながらキャリアアップを目指す方を対象として、福祉保健分野で活躍されている職員をパネリストに迎え、仕事紹介・資格取得に関する講座や現場見学の機会を設定するなど、仕事への理解を促進します。

(4) 福祉施設・事業所等訪問調査

次の事項に取り組むため、市内の福祉保健施設や事業所等に出向きヒアリングを実施します。

ア ウィリング横浜主催研修への意見、要望の収集及び周知

イ 人材確保や育成状況及び、施設内外の研修受講実績等の把握

ウ 個別相談に活用するための求人・採用実態、職員構成等の情報収集

エ 「ウェルじゃん」求人の周知及び活用促進

オ 人材定着の施策、工夫（賃金などの労働条件を除く）についての情報収集

(5) 福祉保健交流スペース「ウェルじゃん」の運営

福祉保健活動従事者及び福祉保健に関心がある市民の交流の場や、福祉保健に関する各種情報を提供する場として、ウィリング横浜12階交流スペースに「ウェルじゃん」を設置します。

また、(1)の福祉保健・介護のお仕事個別相談と併せ、市内福祉保健関係の求人情報提供や福祉に関する書籍・雑誌の紹介を行います。

6 調査研究事業 【拡充】

横浜市における福祉保健事業向上のため、広く調査研究を行う団体を募集し、福祉保健活動従事者や市民活動団体が自主的に取り組む福祉保健に関する、調査研究事業を推進するための情報の提供、共催研修の開催、調査研究成果の発表等の支援を行います。

平成 28 年度の「調査研究事業あり方検討会」で整理された課題を踏まえ、本会の高齢・障害・児童部会を始め、市内で研究ニーズがある団体への積極的な働きかけを行い、事業への参加を促進するための取組みを進めます。

(1) 調査研究団体の拡充・支援

積極的に研究ニーズの把握を行い、研究団体の拡充を進めます。研修案内送付システム（市内事業所 2,700 か所に年 11 回研修案内を送付）を活用し、新規登録団体の活動の周知協力や、情報資料室による研究に要する書籍等の購入により、調査研究団体の活動を支援します。

(2) 研究成果発表の場の提供

福祉保健活動従事者が行う独自の研究内容を市内に広く紹介し、福祉保健サービスの向上を目指すためにサントクフェスティバル内での研究発表を実施します。

(3) 主催研修への参加

調査研究団体のニーズに応じ、研究活動に役立つ主催研修の参加を無料で提供します。

7 ウィリング横浜の特色を生かした独自性のある事業

(1) こころの相談室の運営

福祉保健関係者に対して仕事や活動等における悩みについて臨床心理士等資格を持つカウンセラーが相談を受ける「こころの相談室」事業を行います。

福祉保健関係者の抱える問題の解決や心理的負担の軽減を図ることにより、職場への適応やメンタルヘルスの向上に寄与します。

また、相談が必要な方へ相談室の情報が届くよう、研修案内送付システムを活用してチラシを配架し、本会の広報紙「福祉よこはま」に掲載し周知を進めます。

平成 30 年度実績見込み

相談室開設日数	146 日
相談室利用件数	160 件
相談対象	福祉保健関係者等

※ 相談日時:第 2・4 火曜日、第 1・3 水曜日、第 2・4 木曜日、第 1・3 金曜日は 18 時 30 分～20 時 30 分、毎週土曜日は 14 時～16 時

(2) 受講者数増加に向けた取組み

平成 29 年度から受講者数の増加に向けて受講料設定の見直しを行いました。これにより、受講料を前年度よりも低く設定したところ、研修応募率が増加し定員割れ研修が平成 28 年度比で半減しています。平成 30 年度も受講料を前年度同様に設定するなど、受講者の増加に向けた取組みを進めます。

(3) その他

交流スペースについては、5-(5) 福祉保健交流スペース「ウェルじゃん」の運営

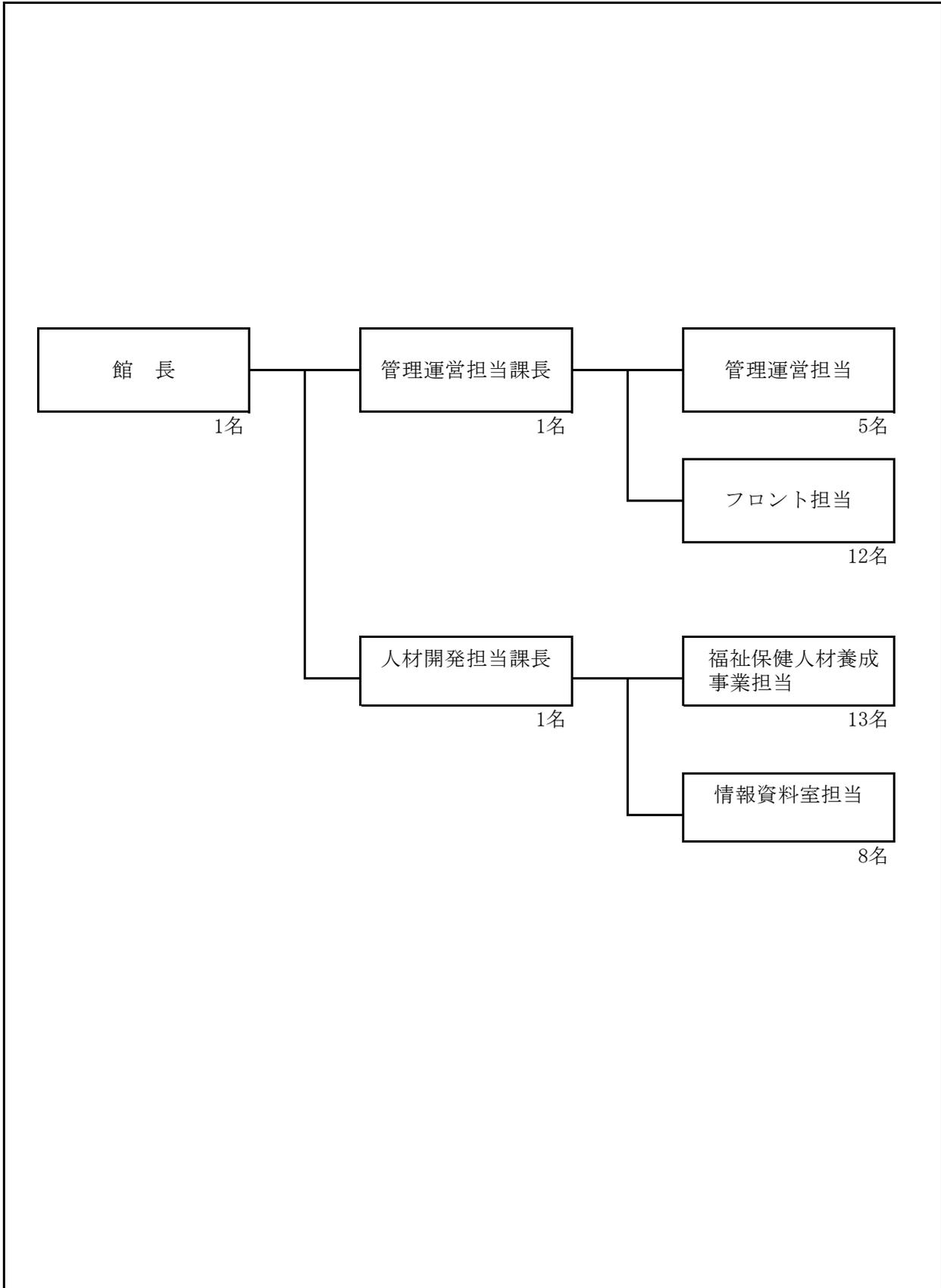
と併せ、開館時間中は自由に開放し、飲食物の自動販売機を設置するなど交流の場として提供します。5階においても同様に交流スペースを提供します。

平成30年度 福祉保健研修交流センターウィリング横浜
職員等配置計画

(単位：人)

所属	担当業務	職種	常勤職員	非常勤職員	備考
		館長	1		
管理運営担当	センター管理運営事業	管理運営 担当課長	1		
		担当職員	3	2	管理運営担当
		担当職員	4	8	フロント担当
人材開発担当	人材開発育成事業	人材開発 担当課長	1		
		担当職員	7	6	福祉保健人材養成事業担当
		担当職員	-	8	情報資料室担当 ※常勤職員分は福祉保健人材養成事業 担当に含む
合計			17	24	

平成30年度 福祉保健研修交流センターウィリング横浜 組織図



平成30年度 福祉保健研修交流センターウィング横浜指定管理事業収支予算書

収入 (単位:円)

項目	予算額	前年予算額	差引	備考
受託金収入	159,639,000	159,639,000	0	
横浜市指定管理料	159,639,000	159,639,000	0	
事業収入	80,983,000	82,271,000	▲ 1,288,000	
参加費収入	16,471,000	16,471,000	0	研修参加費
利用料収入	62,000,000	63,000,000	▲ 1,000,000	研修室等利用料
広告料収入	100,000	100,000	0	事業報告広告掲載料
手数料収入	2,412,000	2,700,000	▲ 288,000	運送サービス受付取扱手数料等
負担金収入	1,092,000	1,178,000	▲ 86,000	
利用料等負担金収入	442,000	528,000	▲ 86,000	コピー機売上金等
負担金収入	650,000	650,000	0	テキスト代
受取利息配当金収入	3,000	3,000	0	預金利息
雑収入	14,000	1,350,000	▲ 1,336,000	
収入計	241,731,000	244,441,000	▲ 2,710,000	

支出

項目	予算額	前年予算額	差引	備考
人件費支出	123,571,000	122,030,000	1,541,000	
職員給料支出	65,705,000	63,202,000	2,503,000	
職員俸給	56,963,000	54,866,000	2,097,000	
職員諸手当	6,326,000	6,463,000	▲ 137,000	
通勤手当	2,416,000	1,873,000	543,000	
職員賞与支出	15,124,000	16,919,000	▲ 1,795,000	
非常勤職員給与支出	28,622,000	29,308,000	▲ 686,000	
法定福利費支出	14,120,000	12,601,000	1,519,000	社会保険料
事業費支出	110,440,000	115,298,000	▲ 4,858,000	
水道光熱費支出	27,000,000	31,000,000	▲ 4,000,000	ガス・電気・水道等料金
消耗品費支出	4,059,000	4,145,000	▲ 86,000	コピー用紙、事務用品等
器具什器費支出	1,300,000	1,502,000	▲ 202,000	研修室貸出備品等
保険料支出	147,000	110,000	37,000	施設賠償保険料
賃借料支出	1,847,000	1,721,000	126,000	図書管理システム用機器、AEDリース費用等
諸謝金費支出	5,213,000	6,653,000	▲ 1,440,000	研修講師謝金等
旅費交通費支出	363,000	454,000	▲ 91,000	職員出張旅費
印刷製本費支出	1,541,000	1,939,000	▲ 398,000	研修案内冊子、封筒印刷等
修繕費支出	2,620,000	2,450,000	170,000	館内設備等修繕
通信運搬費支出	2,928,000	2,418,000	510,000	電話料金、研修受講通知等送付経費
会議費支出	378,000	420,000	▲ 42,000	委員会費用弁償等
広報費支出	350,000	440,000	▲ 90,000	研修室利用案内・周知経費
業務委託費支出	48,263,000	48,451,000	▲ 188,000	施設保守管理業務、研修周知等
手数料支出	1,900,000	1,471,000	429,000	振込手数料等
租税公課支出	10,131,000	10,224,000	▲ 93,000	消費税、印紙税
教材費支出	0	100,000	▲ 100,000	
蔵書購入費支出	2,400,000	1,800,000	600,000	情報資料室書籍購入
事務費支出	510,000	578,000	▲ 68,000	
福利厚生費支出(事務費)	295,000	458,000	▲ 163,000	健康診断費用、市勤労者福祉共済掛金
研修研究費支出(事務費)	185,000	120,000	65,000	職員派遣研修費
諸会費支出(事務費)	30,000	0	30,000	
負担金支出	7,000	7,000	0	図書館協会会費
事業区分間繰入金支出	7,203,000	6,528,000	675,000	退職積立金、法人共通経費
支出計	241,731,000	244,441,000	▲ 2,710,000	

繰越金充当 (前期末支払資金残高)	0	0	0	
----------------------	---	---	---	--

収入計一支出計	0
---------	---